まなびいもがみ

発 行 ： 最上町教育委員会 生涯学習室
ＴＥＬ：43-2350
発行日：令和4年12月22日（隔月発行）

《最上町生涯学習スローガン》　町民ひとり　１学習　１スポーツ　１地域

世界へつなぐ　未来へつなぐ

“音の風コンサートin最上”

が開 催されました!!

令和4年11月13日（日）に音の風コンサートが旧瀬見小学校を会場に開催されました。
町内外、県内外から約180人の来場者がありました。5名のゲストミュージシャンをお招きし、素晴らしい音色と歌声を響かせてくださいました。また、町内からは、最上中学校吹奏楽部3年生、最上町コーラス隊「絆」、ギターサークル「アンサンブルヴェルデ」の皆さんが参加しました。
1部、2部を通して全17曲の調べを堪能し、心豊かな時間を過ごしていただけたと思います。

第27回最上町書道展作品募集

町内の小学生、中学生の応募作品を審査し、最優秀賞に賞状を差し上げます。その他の方には参加賞を差し上げます。
※今年度より特別賞のみ賞状をお渡しすることになりました。ご了承ください。
（高校生と一般の方は無審査とします。）

1.作品の課題
　小学1年「ともだち」　小学2年「はつゆき」
　小学3年「お正月」　小学4年「平和の光」
　小学5年「高い希望」　小学6年「理想実現」
　中学1年「梅香る里」　中学2年「温故知新」
　中学3年「東雲春光」※行書体

2.出品料　小・中・高校生：無料／一般：200円

3.応募期間　令和5年1月10日（火）～23日（月）

4.提出場所　中央公民館　※作品は1人1点まで

5.展示期間　令和4年1月26日（木）～2月1日（水）
　展示場所　中央公民館　大ホールロビー
　同時開催　【最上地区小学生人権書写展】

※用紙は、半紙またはじょうふく紙（タテ68cm×ヨコ17.5cm）とします
　高校生・一般の方の課題と用紙は自由とします。
※作品には学年と氏名を記入し、学校名は記入しないでください。
　一般の方は、氏名のみ記入してください。
※作品は、申込書に出品料を添え、中央公民館に提出ください。

大会・イベント

赤倉温泉スキー場　大会情報

1月15日・16日　県中学校総体スキー大会
1月16日・17日　県高校総体スキー大会
1月20日・21日　山形県選手権スキー大会
1月22日　山形県国体予選スキー大会
2月07日～11日　全国高等学校スキー大会

最上町イベント情報

赤倉温泉お柴灯まつり　1月14日（土）

古くから伝わる小正月行事。下帯姿の青年が松明を手に地区内を駆け巡り家内安全・商売繁盛を祈願。
古いお札、お守り、正月飾りをご神火によりお清めします。
問合せ：赤倉温泉観光協会　080-1660-4083

赤倉温泉スキー場雪まつり　2月9日（土）

謎解き、ゲームなど楽しいイベントやプレゼントキャンペーンを開催。小学生以下リフト無料。
会場：赤倉温泉スキー場　　時間：8時30分～16時
問合せ：赤倉温泉スキー場　0233-45-2901

中央公民館年末年始閉館のお知らせ

《中央公民館の閉館期間》

令和4年１２月２９日（木）
～ 令和５年１月3日（火）
※閉館に伴い、図書室も閉室となります
ので、ご注意ください。

《地区公民館の窓口業務休業期間》

令和４年１２月２９日（木）
～ 令和５年１月３日（火）
※大堀・冨澤地区公民館は窓口業務が休業

＝集落公民館の冬季間の建物管理のお願い＝

除･排雪作業に当たる際には次のことに留意して、安全な作業をお願いします。

【除･排雪時の注意点】

安全第一、過信は禁物

① 雪下ろしの際は2人以上で行い命綱とヘルメットの着用、はしごの固定等細心の準備を心がけましょう。

② 集落で排雪作業に当たる場合は、一人ではなく、複数人で安全確認できるように作業を行いましょう。

【公民館利用について】

帰りがけにもう一度確認

① 公民館利用後は、流し台の湯沸かし器やトイレの水抜き等を忘れないで凍結防止につとめましょう。

② 年末年始に集落での会議や催しなどが予定されている集落では、この時節がらマスクの着用や手指の消毒など、感染症対策をしっかり行いましょう。

『紙門松を配布しております!!』

毎年、中央公民館から町内すべてのご家庭と分館に紙門松を配布しております。例年通り1軒一対（2枚）となっております。

門松はお正月に各家庭にやってくる、家内安全･五穀豊穣をもたらす歳神様が、迷うことなく、おいでになるよう目印になるもの、おいでになった歳神様の依代になるものであるとも言われています。

令和5年度を皆様が心穏やかに迎えられますように、そして幸多き1年になりますように職員一同お祈り申し上げます。

☆新しい本が続々入荷中です☆

中央公民館図書室新刊情報

≪角川春樹小説賞≫

＊「写楽女」 森明日香著（角川春樹事務所）

＊「方舟」 夕木春央著（講談社）
＊「両手にトカレフ」 ブレイディみかこ著（ポプラ社）
＊「君のクイズ」 小川哲著（朝日新聞出版）
＊「老害の人」 内館牧子著（講談社）
＊「変な絵」 雨穴著（双葉社）
＊「川のほとりに立つ者は」 寺地はるな著（双葉社）
＊「栞と嘘の季節」 米澤穂信著（集英社）
＊「光のとこにいてね」 一穂ミチ著（文藝春秋）
＊「燐憫」 島本理生著（朝日新聞出版）
＊「月の立つ林で」 青山美智子著（ポプラ社）
＊「最後まで在宅おひとりさまで機嫌よく」
上野千鶴子著（中央公論社）
＊「一汁一菜でよいという提案」 土井善晴著（新潮社）
＊「おいしい子育て」 平野レミ著（ポプラ社）
＊「パンどろぼうのせかいいちおいしいパンレシピ」
吉永麻衣子著（KADOKAWA）

「無人島のふたり」 山本文緒著（新潮社）

―120日以上生きなくちゃ日記―

お別れの言葉は、言っても言っても言い足りない―。急逝した作家の闘病記。

これを書くことをお別れの挨拶とさせて下さい――。
思いがけない大波にさらわれ、夫とふたりだけで無人島に流されてしまったかのように、ある日突然にがんと診断され、コロナ禍の自宅でふたりきりで過ごす闘病生活が始まった。58歳で余命宣告を受け、それでも書くことを手放さなかった作家が最期まで綴っていた日記。